

## 当院での耳鳴検査の現状と治療について

○石川 真麻, 富来 まゆみ, 伊佐山 亮, 横山 祥恵, 岩口 忍, 高橋 奈々, 平原 賢次  
社会保険田川病院 検査課

### 【はじめに】

耳鳴りとは「明らかな体外音源がない状態で感じる音覚」と定義されている。人口のおよそ10~15%が耳鳴りを経験しており、そのうち約2割が重い耳鳴りの症状に苦しんでいる。当院では耳鼻咽喉科医師の要望により2015年9月から耳鳴検査を導入した。検査方法、現状、症例について報告する。

### 【方法】

対象は2015年9月から2017年7月に標準純音聴力検査、耳鳴検査(ピッチ・マッチ検査、ラウドネス・バランス検査)を施行した552名(男性220名、女性332名)の患者である。年齢、耳鳴部位、原因疾患、ピッチ・マッチ検査、ラウドネス・バランス検査、THIスコア(耳鳴障害度スコア)、THIスコアとラウドネス・バランスの関係について検討した。

### 【結果】

#### ① 年齢

男性では60代、女性では70代の患者が最も多かった。(10歳から92歳)

#### ② 耳鳴部位

両側性耳鳴は254名、片側性耳鳴は292名(右側:136名、左側:156名)であった。耳以外は頭頂部・頭の上:4名、頭の後ろ:1名、不明:1名の計6名であった。

#### ③ 原因疾患

伝音性難聴:17%、感音性難聴:57%、その他の難聴:9%、難聴なし:17%

#### ④ ピッチ・マッチ検査

高音域(4000-8000Hz)の耳鳴が最も多かった。

#### ⑤ ラウドネス・バランス検査

閾値上0-10dBの耳鳴患者が最も多かった。

#### ⑥ THIスコア

ハンディなし:43%、軽症:26%、中等症:14%、重症:17%

#### ⑦ THIスコアとラウドネス・バランスの関係

THIスコアの各重症度分類においてラウドネス・バランスに有意差は認められなかった。

### 〈症例1〉

60代 男性 耳鳴側:左耳  
平均聴力レベル 右:38.8dB 左:75.0dB  
診断:左突発性難聴+耳鳴り  
ピッチ・マッチ、ラウドネス・バランス検査  
左:8000Hz 75dB(閾値上15dB)  
THIスコア:56(中等症)  
治療:ステロイド鼓室内注入等により難聴改善するに従って、耳鳴り症状も徐々に改善した。

### 〈症例2〉

70代 男性 耳鳴側:両耳  
平均聴力レベル 右:28.8dB 左:32.5dB  
診断:老人性難聴(軽度)+耳鳴り  
ピッチ・マッチ、ラウドネス・バランス検査  
右:8000Hz 45dB(閾値上0dB)  
左:8000Hz 45dB(閾値上0dB)  
THIスコア:28(軽症)  
治療:補聴器による音の増幅では治療効果乏しく、TRT療法(カウンセリング+音響療法)により耳鳴り症状徐々に改善した。

### 【考察】

今回の調査で当院の耳鳴り患者の83%は難聴を伴っていた。難聴の治療により耳鳴り症状が徐々に改善した症例を経験し、耳鳴りと難聴には密接な関係がある事を再認識した。

重度の耳鳴りに悩む患者でも必ずしも耳鳴ラウドネスが大きいとは言えなかった。耳鳴りは患者自身にしか理解できない症状であり苦痛度の個人差が大きいため、著効な治療法が確立していなかったと考えられる。

今回TRT療法という「耳鳴りを意識しないよう訓練する」治療により長年の辛い耳鳴りを克服した患者を経験した。検査だけでなく耳鳴りに対する知識を深め、患者に寄り添って行くことが患者の満足度向上に繋がると実感した。

連絡先 社会保険田川病院 検査課  
石川 真麻 0947-44-0460